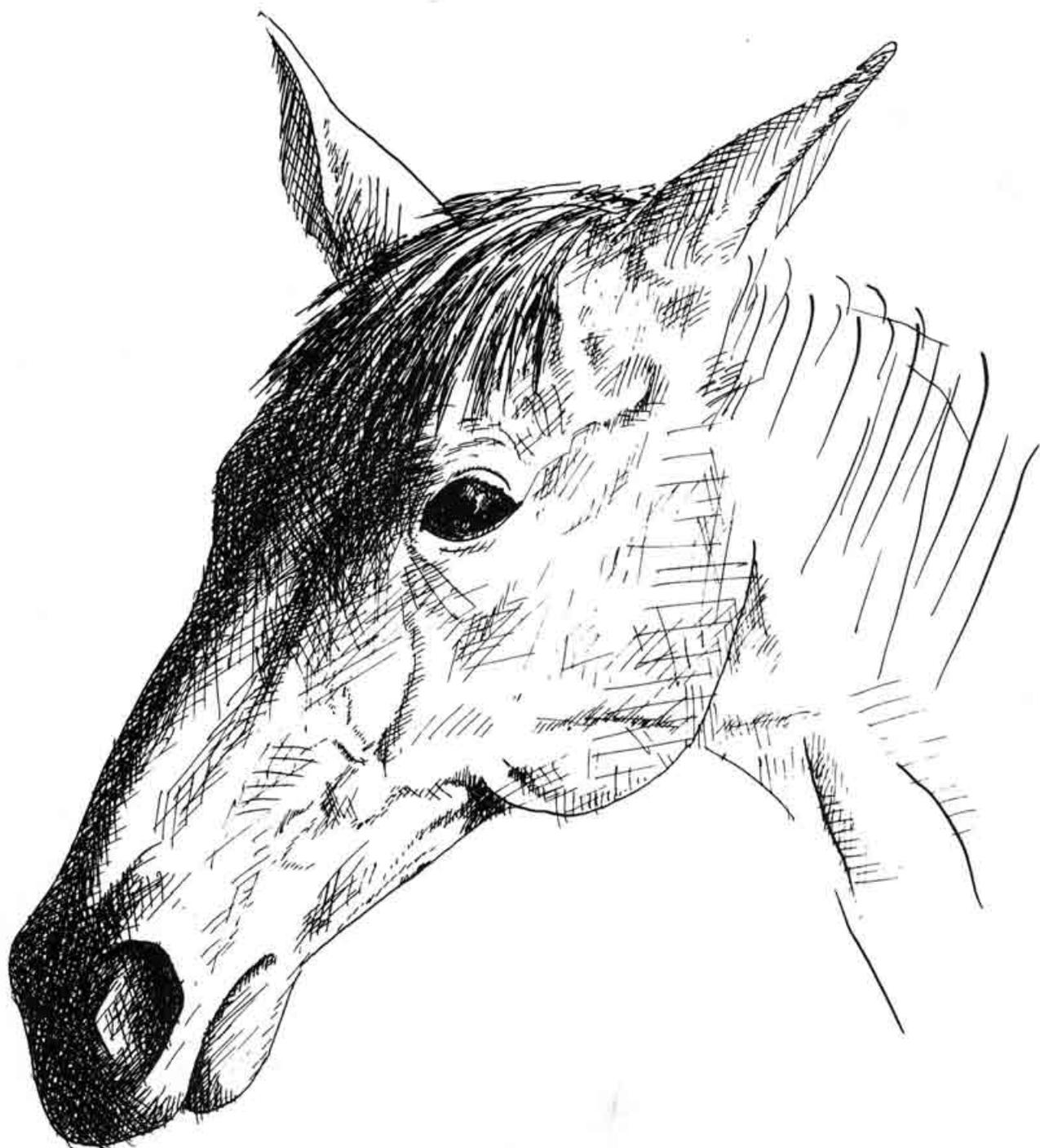


昭和61年度

No. **32**部 報



北大馬術部

別冊

調教報告編

目 次

北 皇 子 号 ----- 1

北 曜 号 ----- 6

北 紫 雲 号 ----- 7

N o e l 号 ----- 9

北 銀 号 ----- 12

北 玲 号 ----- 15

北 雷 号 ----- 17

ス - ハ - ・ ボ - イ 号 ----- 20

北 凜 号 ----- 22

## 北皇子号調教報告

陣川 雅樹

北皇子に騎乗しはじめたのは、3年目の終り、2月末からで約8ヶ月ほどの付き合いであった。正直な話、ギャランには乗りたくなかった。こんなで来た馬に乗ってもおもしろくないやないか、と思っていた。西村が胃潰瘍でダウンして、急遽自分が乗ることになった。2頭乗りは絶対避けるべきだとおもっていたし、主将という役職についたこともあってかなり悩んだ。しかし、こうするしかなかった。

乗りはじめて思ったことは、ともかく何でもできてしまう。特に今まで新馬のギンに乗っていた者にとってギンでできなかつたことをなんなくこなしてしまうのだ。何をやっていいのか途方に暮れた。だが、ギャランとて同じ馬。やらなければならないことはギンもギャランも同じである。それに名越兄が乗っていた馬なのだから基本は同じことをやってきたはずである。そう思った。できるだけ外で走らせたし、スムーズな伸縮・回転、そしてキャバレティー・バーで踏み切りを、そして完飛するためのアプローチ・踏み切りを読むことを考えて乗った。

そんな時、3月の末に腱鞘炎のため右前肢球節に水をためてしまった。以前から少しあって何回か抜いていたのだが、ちょうど水野兄と本城兄が来札されていて抜いてもらった。そして「もう今度水がたまったらもう抜けないから肢巻でずっと押さえなあかん。それと3・4週間は馬房や。」といわれた。ラッキーだったのは、3月の末馬場が凍って何もできないときにちょうどかかったので約3週間馬休にした。しかしそれが終わったらもうシーズンに突入するので不安で一杯であった。そこで考えたのは、馬体的にどうしてもガンガン続けてやれない。試合前1週間ほどから調整して試合に臨む。試合後から次の試合まではできるだけ運動をおさえる。実際の試合の中でどうすればいい状態で走行できるかを摸索して、最終目標は北日だけにした。

ギャランで最初の試合、セレクション。自分でこの状態をつくったわけではなく、どちらかといえばギャランが自分でつくった、という感じであった。しかし、これがいい状態なんだよとギャランに教えられた、と思った。そして半沢杯。ギャランの状態が上がらず、当然のように失敗した。

調教の考え方、方法の転期、それは5月末の強化馬の門別での合宿であった。コーチとしてこられた村上捷治さんに「障害馬はいかに調教すべきか」ということを教えられた。障害馬の練習、訓練、障害へのアプローチ。これからのやるべきことが見えてきた。この合宿で村上さんに教えてもらったことをまとめると、

- ・ ゆっくり走ること、大きく走ること。
- ・ どんな障害でも（キャバレティー・バーでも）つめて向けて障害前で脚をつ

かうと、馬が自分から障害に向かっていく。そういう状態をキャバレティー・パーでもつくる。

- ・ 障害を飛んだら思った手前が自由に出せること。
- ・ 正しい手前、正しい扶助。

どれもこれも基本的なことばかり。しかしこれらをやりこなすのは非常に難しいことです。もちろん適当にやろうと思えばどれもできます。がこういう基本的なことができないと中障は飛べないんだ、と村上さんに言われました。1m20ぐらいの障害を飛ばせば、馬は飛越するため自分から緊張して飛びます。しかし、60cmの単一、キャバレティーをそれと同じような緊張度で通過させるのはどれほどむずかしい事でしょうか。キャバレティーや小さな単一でそれができれば、どんな障害でも恐くないと思います。

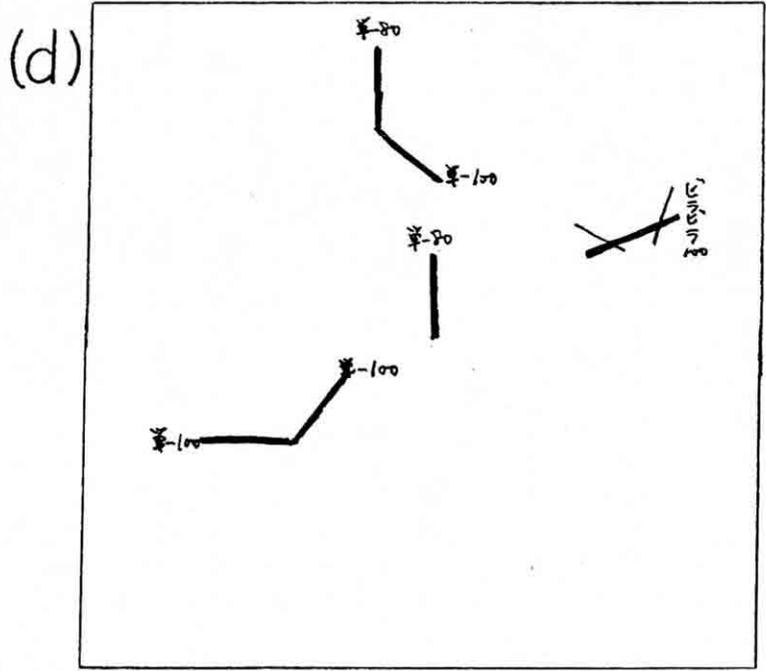
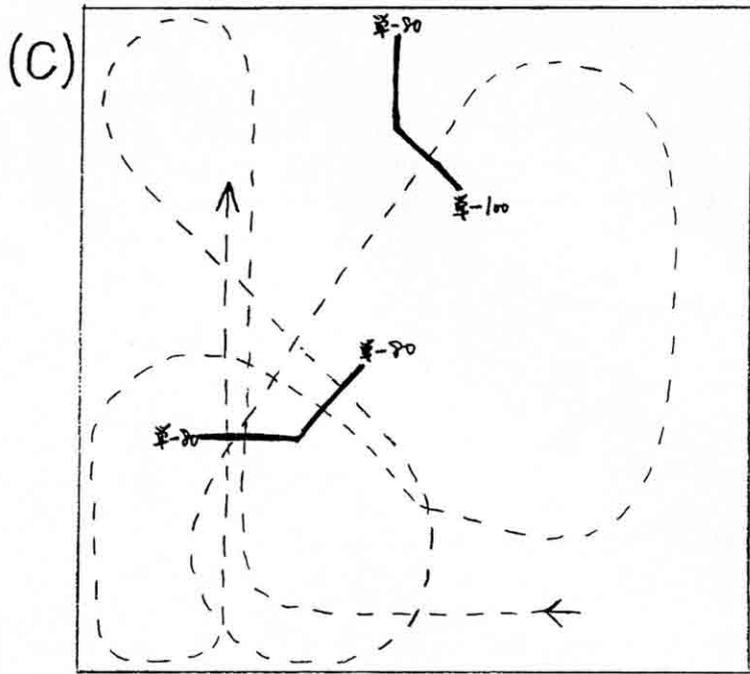
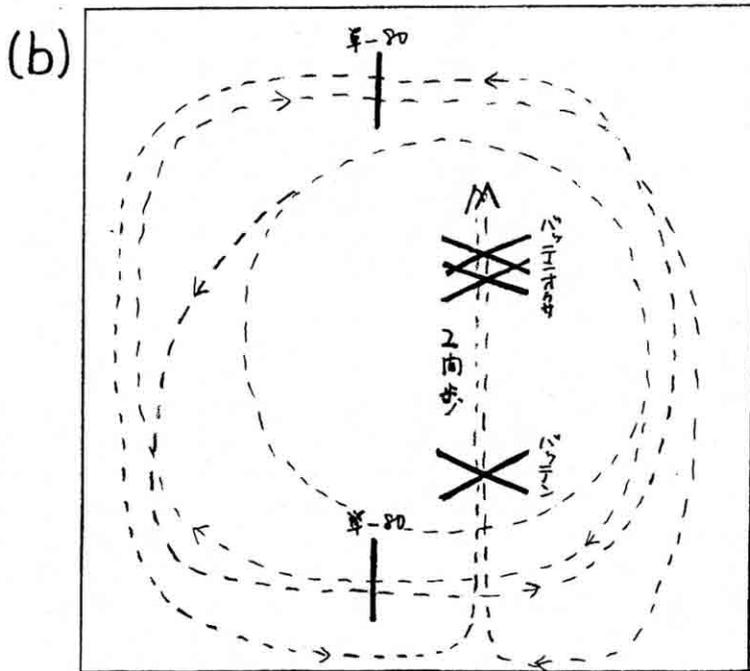
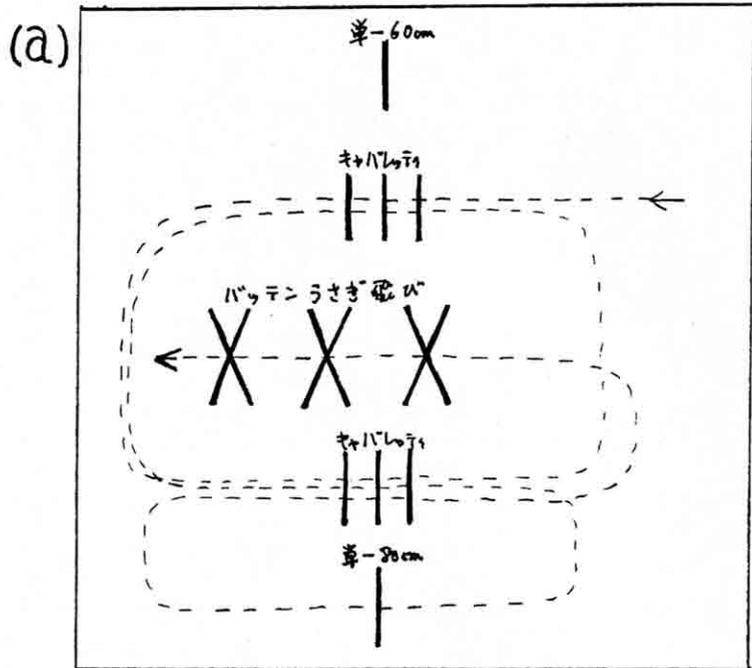
それから自分が普段やっていることで非常に怒られたことがあります。それは北大でよくやる伸長速歩・伸長駆歩です。「そんなに伸ばしたら馬がのびきってしまう。もっとゆっくり！そんなことをしてるから馬体をこわすんやぞ！」思いつきり前に出すことと、しっかり走らすことは全く違うのだと。ガンガン前に出すのは簡単です。もともと馬は追えばどんどん前に出るものだから、それをゆっくり落ち着かせて走るように調教するのです。もし自分の乗っている馬が全然前にでないなら、人間が何かしら邪魔をしているのです。信じられないなら野外にでて、鞭や拍車で追ってみればいい、どれだけ馬が速く走ることか。

さてここで合宿5ヶ間のメニューを書きます。1日目は馬を慣らすだけだったので練習は4回でした。次ページのように障害を並べ練習しました。

- (a)、速歩・伸縮・障害通過。(2日目)
- (b)、駆歩・伸縮・障害通過。(3日目)
- (c)、駆歩の正しい手前・正しい扶助・障害通過。(4日目)
- (d)、これまでのまとめで各自で経路をつくる。(5日目)

(a)~(c)はコースが決まっており、各々の障害のアプローチ・飛び方、また回転の仕方などそれぞれ目的が合って、ここで全て書くわけにはいかないので回り方だけ書きます。それを聞きたい人は陣川まで申し出てくれれば、経路は覚えているのですぐに教えられます。また(d)は自分だったらこう回るのにとこののを考えてください。

合宿後、こういう考え方で乗ってみて、馬がおもしろいように動いた。どんな障害でもこわくなかった。そして道自馬。生まれて初めてのジャンプ・オフで人間が勝ちを意識し過ぎて失敗した。3位だった。この頃からギャランの左肩がおかしくなり始めた。そして8月末の公認。いまから思えばこの頃がピークだったすべてが満足の行く走行だった。中障碍で優勝できなかったのは、ジャンプ・オ



フで競駿号と競ってリーチの差、馬格の差で負けたのだ。こればかりはどうしようもない、ギャランは満点の走行をしたのだから。

そして北日までの2週間。ギャランに余裕ができたと思いギンの方に色気を出してしまった。そこでギャランの調整に狂いが出てきた。人の方にあせりがあった。人馬に狂いが生じた。思ったように踏み切りが合わない。最悪の状態です。北日に突入してしまいました。二回走行の1走目、馬は重く2反3落。このとき二走の権利は半分あきらめた。2走目は総合の為の馴致、練習だと。その日川俣さん(旧折橋姉)に「公認のときと乗り方が全然違う、前をおさえすぎている。基本的なことを忘れてるんじゃないか?」と言われてハッと気が付いた。この4年間やってきた乗り方と違う乗り方をしているんじゃないか。2走目、口はほとんど持たずに飛んだ。結果は2落、当然権利は取れなかった。しかしこの日の走行で総合の耐久を走ればもとにもどれる気がした。そして総合は思うように走ってくれ4位であった。北日が終わって、やはりギャランは型にはめ込んだ乗り方をするより、自由にのびのびと走らせた方がその力を最大限に発揮してくれるのだとわかった。

それから肩の故障のため2週間完全馬休にした。馬体検査の時、ぎりぎりでも通過させてもらった。「1ヶ月ぐらい休ませてやりな。使いすぎだぞ。」と久保田さんに言われたからだ。……しかし2週間では直らなかった。結局、全日学までの2ヶ月間、1ヶ月は完全馬休、1ヶ月は常歩程度の運動しかできなかった。道体・東日本・選考会、全てキャンセルした。福島もいろいろな手はつくしてくれた。でも直らなかった。しかしそのまま連れていった。クラブのために。

馬事公苑で乗ってみて、速歩・駆歩では極端にハミを嫌った。それが調教審査ではもろに出てしまった。今までの馬場の中で最低の出来であった。耐久は特に勝負を賭けずとにかく満点で帰ることを目指し、人馬ともに気楽に回ることにした。結果は5反抗。水飛び込みで2反抗されたときにこう思った。「しまった。町田兄にステイプルのことを聞いとけばよかった。」馬事公苑のステイプルは、見ただけでは少し大きい別問題はないと思ってしまう。しかし人間がよく頭を使わないと、そして乗っている馬の事をよく知っていないと絶対満点で帰ってこれないようにつくってある。また規定タイムが短くかなりのスピードで回らないとタイム減点を食ってしまう。これは一度走ってみた者にしか、わからない事である。北日のステイプルとは全く異質である。そして馬体検査、朝5時に起きて2時間曳馬をした。が、やはりひっかかった。しかし、まあ北海道から来ていることだし、ということでパスしてしまった。自分が思うにおそらく順位にあまり関係なかったからではないかと思った。余力。ハミをかまず、チャカチャカして非常に困った。結果は踏み切りを合わせられなかった所で3落。総合

が終わってみて、結果なんてどうでもよかった。とにかく痛い肩を我慢して飛び続けてくれたギャランにご苦労様、お疲れ様としか言えなかった。

ギャランに乗って来て、教える事よりも教えられる事の方が多かった。今、自分が持っている技術もその大部分がギャランのおかげである。今シーズン、こんな不本意な成績で終わってしまったことを、現役の同輩・後輩たち、ギャランの歴代のチーフ、畜大の清水君をはじめとする北日の同輩に対して本当にすまなかったと思う。そして何よりもギャランに対して、お前の名を全国に轟かしてやれなかったことをすまなく思う。

現在、肩の破行はないようである。しかし、右前肢の腱鞘炎から来る右肩の破行と思われるので、十分に馬体に気を使ってやってほしい。そして一番大切な事は、ギャランを愛し、心を通じ合わせることである。

## 北曜号調教報告

半田 友子

調教責任者からは程遠く、北曜にとって最初から苦しい時であったのに、更に苦しめてきてしまった事を改めて反省しています。

現在彼がクラブから離れ他界してしまったことを考えると細かい事を個々に書くのは無意味と思えますから北曜に乗せていただいた1年間の大まかな報告と感じている事を書かせてもらいます。

私は2年の冬から北曜の馬体管理を手伝い、3年の秋から彼に関する責任を持つようになりました。競争馬、障碍馬として長年活躍してきた彼にはあちこちにつかれがでていて、人の為の練習が主体になりがちな練習は全く無理な状態でした。良くなってきて運動量も増やしていった冬にキ甲を痛めさせ、調馬索のみの期間に筋力、体力を低下させてしまい、再び乗り始めてもとに戻そうと量を増やす間に破行がひどくなるという状況の中急激な運動をさせたのが原因で臄を痛めさせ、シーズンを棒に振らせてしまいました。北曜から多くのことを学べたはずの人達に私の失敗によって数知れないその機会をつぶしてしまったことを本当に申しわけなく思います。

北曜は現在私が居る洞爺のどさんこ牧場に8月から翌2月までおり、2月15日に衰弱した結果他界しました。最終的に乗れなくしたのも、衰弱し、死に至らせたのも、その責任が全て私にあったことを思うと、愛する馬を苦しめるだけだった無力さをズシリと感じます。

振り返ると4年間私はもっと真剣に人と、そして馬と付き合えたはずなのに逃げていたような気がします。真剣に付き合えば何回も障碍を飛び越えなければならぬのに越えるのを途中でやめていたのです。人生もレースにたとえられますから、いろんな人と付き合う度に障碍にぶつかるのだと思います。真剣であればあるほど回数は多く、高いのだと思いますが、越えれば越えるほど筋力もつき、賢くなるのです。越えられるわけないでしょ！と思うような障碍にぶつかっても努力はやめないでください。越えられない障碍にはぶつからないことになっているのですから。4年間、馬を越えさせるライダー・トレーナーとしての技術を身につけていくのと同様にライダー自身の強さもさらに力を増しますよう祈り、さらなる馬術部の発展を期待します。

## 北紫雲号調教報告

高田 敏江

北紫雲号とは2年目のコンビですが、昨シーズンは野中兄のご指導で下付きとして騎乗してきました。シーズン終りごろには試合場にはいるのを嫌うこともなく、B障まではゴールを切れる状態となりました。そして今回、私が調教責任者となり一年を過ごしたわけですが、春と夏に大きな怪我をさせてしまい試合にも出場できない状態で終わってしまったことを、ご指導下されたOBの方々、世話をしてくれたクラブ員、何よりも北紫雲号に申しわけなく思います。調教とは言い難いのですが、一年間の報告をします。

前年、外での順致が効果を上げ馬が自信を持つようになり、試合においてもかなり落ち着くようになっていたので冬の間馬場から外れ、もっぱら馴致。広い場所での運動はかなりムラ気がありましたが、徐々にそう言うことも少なくなり、馬場と同じような状態で運動するようになりましたが、その半面、馬が慣れてきて、要求にたいしいい加減になってきたのですが、人がそのことをはっきり認められず、気付いたときには扶助に対してこづくなり、いい加減な反応しか示さない状態となっていました。敏感な脚への反応をもう一度始めからやり直そうとしたが、人の焦りばかりが先走り馬との会話も無くなってしまいました。そして3月の中ごろ、自分の不注意で怪我をさせてしまい4月末まで馬休。本格的に運動を始めるまでの間、顎を譲って後肢の踏み込みを良くするよう試み、人馬ともその感覚を理解するきっかけとなりました。道自馬の時ではB障に出場。仮厩舎の中で全く落ち着きを失い震えている馬を見たとき、どうなるかと思いましたが、準備運動をする内に落ち着き、集中して障害を飛越。場内では反抗することもなく、スムーズにスタートを切りましたが、連続障害で突っ込んでしまい、Bで拒止。そのはずみに人が落馬し、頭絡が外れて失権。しかし、それまで安定した走行であって、一番心配していた、場内にはいつても反抗が少しも感じられず、安心してしまった。そして公認でB障。道自馬に比べ馬も落ち着き、準備馬場でもそれほど興奮することもなく素直。しかし場内に入りいざ第一障害に向かう直線に入るとからだを固くし、スタートを拒否。もう一度向かうが、馬体を固くし、一番反抗。二度めで飛越したものの、二番で同じように反抗。三番・四番と、飛びはしたものの良くない。水壕で反抗し失権。次の日小障に出たが場内で同じようになり、速歩で飛越させ、何とかゴールを切らせた。こういう事態になるとは全く考えられずに、良いと思っていた馬との状態は一方的な人間の方の無理強いでしかなく、思い上がった騎乗でしかなかったのです。北日本まであと僅か。総合に備えて野外の馴致に行き、馬の勇氣に改めて驚き、それまでの馬に対する信頼のなさを反省させられ、得るものが多かったが、二度目の馴致で川にはまり両

後肢傷だらけとなり、試合出発まで後一週間だというのにぼっこり腫れ上がってしまった。なかなか腫れがひかず、最後は薬で腫れをひかせて輸送。無理に無理を重ねて二走に出場したが、準備運動中に破行。第二障害まで飛んで棄権。総合も棄権。最後の道体も調整がつかず棄権しました。この様な情けない状態で終わってしまったのも、自分の馬体管理の悪さから、また心のどこかにあった馬に対する不信感の為、馬に無理強いをするだけで会話をしてやれない自分が原因です。自分の失敗ばかりを書きつらねたもので「調教報告」とは言えませんが、こんな失敗の無いように頑張ってください。

マリは、肝玉は小さいけれど一度自信を持たせると、凄く強い勇敢な馬です。

昨年11月下旬より、ノエルの調教者となった。昨シーズンに町田元主将らが数年ぶりに全日学団体出場を果たした。僕がそれを引き継ぐには、ノエルしかないと思った。ノエルが北大にきて4年目になり、彼女もかなり年をとった。一昨年、昨年と怪我に泣かされてきたのは不安であった。また、僕が1年目の頃、ノエルには斉藤勝雄さんと森田兄が乗られており、落下はしても、反抗はしないというのがノエルに対するイメージだった。本来、落下の多い馬では勝負にならないが、ドン・ホッパーと北皇子を除けば、ノエル以外に勝負になりそうな馬はいないというのが僕の判断であって、これは昔と変わっていないと思う。

(調教)

僕がノエルに乗って感じたのは、脚に鈍いことであった。それで、最初の頃は、馬場の状態が悪いのもあり、第一農場で、ひたすら、速歩・駆歩の伸縮を繰り返した。僕自身の馬上の安定性もなかったので、効果はあまり良いとは思わないが、まあまあの練習だったと思う。

冬になり、馬場で乗っていても速歩・駆歩の伸縮は繰り返した。障碍に対しても最初は前進氣勢がまるで感じられなかったが、伸縮と単一・連続を混ぜることによって、障碍に対して馬が自ら向かって行くようになった。しかし、これは斉藤勝雄さんが数年前に既にノエルに教えていたことなので僕がコツをマスターすれば、かなりスムーズにいった。僕がノエルに乗ってできたことは、これだけである。他に色々やろうと思ってはいたが、不十分にしかできなかったこと、或いは全くできなかったことを述べて、今後のチーフの参考にでもなればと思う。

ノエルは障碍を良く落とす。何故か。まず、僕の随伴が悪かった。また、ノエルは障碍に対して潔癖ではない。飛ばせば良いという感じでしか、僕が乗らなかったのもある。元来、落とし易いのもある。馬事雑話で、パラージュによる矯正法もあるが、その前に、衝受けをもっと要求しなければいけないと思う。衝受とは何かといわれても僕には正確に答えることはできない。しかし最近、機会あってドン・ホッパーに乗せてもらっているが、ドン・ホッパーとノエルの違い—ノエルが全日学へ出られなかった原因—は、伸縮だと思う。経路回りをすればはっきりするだろう。つまり、飛越後、馬は前にのめる。その後、体勢を立て直す。そうでなければ、回転はふくらみ、次の障碍へのアプローチで、直線距離が十分にとれない。そのまま障碍に向かえば、馬は、フラットなバスキュールを描く。馬体が伸び切ったまま踏み切れれば、そうならざるを得ない。それが連続であれば、間歩が合わなくなり、BあるいはCで拒止、良くとも落下となるだろう。だから、フラットワークで、自分のコントロール下に馬を置かなければならないどこ

まで行わなければならないか。実際に、2・3の障碍をおいて飛んでみればわかる。北皇子やドン・ホッパーのビデオを見て、自分とその馬が同じ様にできるか試してみれば良い。ドン・ホッパーや北皇子に実際に乗ってみれば良い。僕がこれがどうしてできなかつたのかというまづ、拳が安定していなかつた。譲れなかつた。また脚に対して、馬が恐怖心を持ち過ぎてしまった。脚を使えば、馬は前に出るが、焦って前に出るので、脚の強弱が伝わらず、細かい伸縮の扶助ができなかつたことだ。そして何よりもいけなかつたのは、まわりにいる人間を利用しなかつた、つまり、自分の殻の中に入っていたことだ。これについては「卒部にあたって」で述べているので、そこを読んでくれれば十分である。

騎手の試合での冷静さ—どなたかの調教報告にも書いてあったが—も大切なことである。北日本の2回走行での1走目で、僕は、異常なまでに興奮していた。馬にもそれが伝わったのか、馬も興奮してしまい、僕のコントロール下になかつた。気力・根性、確かに大事だが、それだけでは駄目である。騎手は試合で馬をコントロールする為に、いつも乗っているのだ。試合では準備運動のできに左右されるから、準備運動が大切である。普段と試合と、どこが違っているのか、どうすれば馬が良くなるか、それを行えるのは準備運動だから。だから準備運動のパターンを作っておけば良いと思う。普段の練習が、試合で勝つためのもので、それを試合でできれば、負ける筈はない。試合でできなければ、普段からやっていないければ、負ける。当たり前である。

#### (降りた時のノエルとの付き合い)

僕は経済学部で、大いに時間があり、また、主務の仕事も、中野弟が助けてくれたので、かなり余裕があり、ノエルと接する時間はかなりあった。暇を見付けるとは、曳き馬へ行ったり、放牧中のノエルと遊ぶことができた。ノエルは、小役丸姉も調教報告で書かれていたが、見かけよりずっと臆病で、人に頼ってくる。僕に対し、かなり頼ってくるので、嬉しかったし、調教上、好都合だった。というのも、遠征して、馬が興奮してうろたえていても、僕がなだめてやれば、かなり落ち着き、僕に対し、注意と信頼を向けてきたので、準備運動は勿論、行い易かったし、安心して遠征に行くことができた。

馬体管理は試行錯誤の連続であった。両前肢に骨瘤があり、それをいつも気にしていたが、これが原因で馬休ということではなく、ラッキーだった。しかし、右の頸に腫瘍があったのが大きくなり、小池先生にみていただいたが、良性とも悪性とも判別できず、これも爆弾の一つであった。また、シーズン途中から、右前膝にも骨膜炎ができ、右肩もいささか悪くなりだした。これにビビってしまい、運動が慎重になってしまったのは致命的であった。そして右前蹄の裂蹄がひどく

なり、破行がひどくなった。しかし、装蹄師の太田さんのおかげで運動が行えるようになった。そのあと、シーズンが終わるまで、太田さんには本当にお世話になりました。太田さんがいらっしゃらなければ、とても試合どころではなかったのですから、感謝のいいようもありません。勿論、毎日、うるさく言った僕にしたがってくれたサブ・チーフには感謝の嵐です。

(結び)

多くの試合の中で一番良かったのは道自馬であった。その後は、連続を強引にやり、踏切が余計悪くなり、馬体を気にしすぎて、練習量が減って、失敗した。

馬に乗るときは思い切ってやってほしい。やみくもになっても駄目だが、研究してよいと思ったことを思い切ってやらなければ、絶対、甘さが出る。それは致命的となる。

最後に、僕の勝手を許してくれた同輩、僕とノエルの為に一生懸命働いてくれた下級生、馬体のことでお世話になった小池先生、野中兄、太田さん、良きアドバイスを与えてくださった岡田監督、半沢先生、遠くから応援してくださった齊藤勝雄さん、柏友会の久保田さん、その他OBの方々お世話になりました。それにも拘わらず、ノエルをドン・ホッパー・北皇子に続く馬とされながらも、全日学へ送り出せず、申しわけなくてたまりません。あと1年札幌にいますので、クラブに少しは恩返しをしようと思い、馬場に出かけている毎日(3日に2日)である。

## 北銀号調教報告

陣川 雅樹

北銀号に騎乗しはじめたのは、2年目の終りごろ、3月からであるから約1年半。最初は、名越兄・半沢先生の下について乗りはじめた。

とにかく自分の思ったとおりに馬を動かす脚と拳をつくること、そしてそのための自分の姿勢を直すこと、この2つが最大の課題であった。はじめは自分のこの脚でいいと思った。こんな脚でもギンにこの脚をわからせればいいのだと。しかし、正直な話、全くギンは動いてくれなかった。1ヶ月ほど悩んで落ち込んだ。そして、やはり正しい脚の位置で、正しい脚の使い方をマスターしないとギンは動いてくれない、そのことを切実に感じた。こう気が付くまで、名越兄や半沢先生には大変迷惑をかけた。「いやあ陣川君は何回言っても直さないんだよ。」とよく言われた。今、現役の中でも同じ様なことで悩んでいる者も多いと思う。悩んでいなくても先輩に注意されたら間違いなくその姿勢はおかしいのだ。調教方針などはいろいろ考えがあるかも知れない。が、姿勢に関しては先輩を絶対に信用してほしい。言われている間はおかしな姿勢で乗っていることを自覚してほしい。

なんか調教報告とはあまり関係ない方向に行ってしまったが、では、この1年どう考えて調教して来たのかを書いて行きたい。自分1人で乗り始めて、まず考えたのは名越兄の調教方針を引き継ぐこと、そして目標は北日の総合でゴールを切ることであった。具体的にその調教方針とは

- ・冬期間の体力作り――前シーズンの後半は、体力不足のため馬がバテてしまい動きが鈍くなり、非常に重くなった。また、馬体の故障も体力不足から来たものと考えられた。そこで、できるかぎり雪の深い所を歩かせた。メイン・ストリートも平らな所を避けて歩いたし、農場でもよく走った。また馬場の中でも深い所へどンドン入って行った。おかげで今シーズンはバテもしなかったし故障も少なかった。四肢はあまり強くないので体力作りは絶対に必要である。
- ・実践を想定した練習――伸縮・回転・踏み切り。最低限これだけでできれば試合に出れる。あとはこれをいかに向上させ、完全なものとするかである。ダッシュ&ターン。これで伸縮と回転を組み合わせた。キャバレティー、キャバレティー・バーは毎日やった。キャバレティー・バーで1m20を楽に飛べるようになってM級C程度の高さ・幅は十分飛べるようになった。踏み切りも間違えることは少なくなった。ただ、連続障害の練習が不

十分だった（ギャランとの2頭乗りのため乗る時間がどうしても少なくなった）ため、2回目からは飛ぶが拒否してしまう。これからの重要な課題だと思う。

・乾濠・水濠の馴致——将来、中障を飛ばすためには絶対必要なことであった。しかし春の間は時間的にここまで手を出せなかった。自分の中で一番心残りのことである。乾濠の馴致を始めたのは北日の2週間ほど前からであった。M字からはじめて乾濠も飛ぶようになった。しかしまだ一度止まってからのぞき込んで飛ぶといった状態で北日で通用するか自信はあまりなかった。しかし水濠など勢いをつけて向けると飛んだので何とかかなると思った。乾濠・水濠はあくまで慣れである。人間の方でこれから乾濠の馴致だ、という特別視するのはさけ、毎日の練習の中で障害や伸縮といった練習に織り込んでいかなければならない。

さて、本番の北日だが、エントリーするときにはまだ総合に出せる自信がなかったのでM級Cにエントリーした。しかし北日前の状態から総合に出せると思ったので、選手会で掛け合ってみた。が、総合は権利がかかっているため変更できなかった。自分の目標に到達できなかったのは残念であったが、2頭乗りが決まった時、一度はあきらめたことなので、自分に「しゃあないことや、終わってからスティープルコースを回ればいいやないか。」といいきかせた。

M級C。結果は二反一落馬。気になっていた連続で2反してしまった。1回目止まった時、やっぱりと思ったし、またもっと注意して気合を入れて向ければよかったと思った。が2回目は全く予想外であった。行ける！と思った。おかげで人は落っこちそうになった。その時「ああ、これでこいつにメダルをやれなくなってしまった。」と思い、目の前の障害に手をつけて体勢をたて直した。これが落馬。この後は順調に飛べた。踏み切りさえ合えば絶対に落下はしないし、踏み切りも安定してきたので、この連続さえ克服すれば、M級C程度までは完ぺきな満点馬である。

北日の全試合が終了後、スティープルへ行った。総合の試合のつもりで回るため一頭だけでいった。反抗は4回、横穴バンケダブルで2回、大乾濠で1回、バツテンで1回切られた。走り終えて「これで目標にたどり着けた。」と思った。スティープルを走って感じたことは、やはり濠を克服しないと満点で帰ってくるのはむずかしい。4反抗のうち3回が濠である。躊躇して覗き込みスピードが落ちると、障害が大きいためどうしても飛べなくなってしまう。だが、ギンという馬のいい所で、障害に対して素直に、そして勇敢に向かっていくためボリューム

のある畜大のステーブルもどンドン飛越して行けたのだと思う。また河原を走っていて思ったのは、伸縮がまだ十分にできないことでブレーキがきかないことが何回かあった。馬場の中ではある程度伸縮できるが、野外だとどうしてもまだ突っ走りぎみになり伸縮がうまくいかない。これもこれからの課題である。

1年半、この馬に乗れて本当におもしろかった。自分がやった分だけギンはやってくれる。調教のおもしろさというものを教えてくれた。もちろんまだまだ未開発の部分はある。連続障害、濠（深さや大きさはほとんど関係ない）、またより大きく高く飛越するため馬の後駆を入れて前駆を上げ、馬をまるくすること、また3級程度の馬場運動をこなせる馬場の調教。ギンに教えることはまだまだある。しかし、馬格にしても中央の馬に引けを取ることはないし、2、3年後の北大を、いや北海道・北日を背負う馬になることは間違いない。この4年間で一番愛した馬、ギンがNHKの画面で放映されることが、今一番の現役諸君への望みである。

## 北玲号調教報告

佐多 康子

前の年は、北駿という馬に乗っていた。自分が技術的にも精神的にも調教者として未熟過ぎることを痛感した一年であった。それでもクラブの中で何かをやりたかったし、さらに自分も騎乗者として成長したかった。このような状況にあった私にとって北玲は魅力のある馬だった。私の課題は、OBの長屋さんから北玲を引き継いで現役の馬として安定させることで、引き継ぎの時点では北玲は多少神経質な面はあるものの特に癖の無い、いわゆる軽い馬だった。とはいえ小さな体を大きく使って運動するのでその動きについていくのと自分の騎乗姿勢を直すのに一冬かかってしまった。それと同時に北玲の場合、若さ故か精神的な不安定さから神経が散漫になりがちで集中力に欠けるところがあり、また飽きっぽいところがあるように思われたので、信頼関係を作り上げることに力をいれた。このように冬の間は、お互いがこのコンビに慣れることだった。私は北玲の動きに慣れなければならなかったし、北玲は、馬場の外で運動することや私の癖や私にしたがって運動することに慣れることが必要だった。考えてみれば私ほど余裕をもって乗れる立場は他になかった。私は、今年勝負に出ようなどとは毛頭考えなかったし、反対に急ぐのは絶対に良くないと考えていた。馴致と小障レベルの試合を大切にして、調子が良ければ、北日の総合の馬場と余力にOPEN参加しようと決めていた。

心配していた腰の持病もでなかったので、冬から春にかけても結構障害の練習ができた。北姫がコンビネーションに力を入れていたので便乗させてもらって、私の障害姿勢の訓練と北玲の飛越リズムを安定させるために歩様や間歩を変えて一定のペースで通過することを考えながら繰り返した。北玲は決して器用な馬ではなく、不安定な要素によって色々失敗したし、また慎重な方だった。

シーズン始めの半沢杯、試合の雰囲気にも人馬とも興奮してしまい準備運動まで長屋さんにみてもらった。スピードがでていなくてもないのに人馬のリズムがあわず、馬にペースを合わせて邪魔せずに乗っていることも、走りやすいペースに馬を御すこともできなかった。不器用で慎重な割には大変せっかちなのであった。

人馬ともに問題のあるこの性格を少しでも改善するために、まめに馴致に行った。6月の中旬、私は帰宅途中横断中の不注意で交通事故に遭い、北玲の騎乗を下級生にお願いすることになった。その後の試合は、主に2年生が出場しませんが成績を修めてくれ、北玲もだいぶ試合慣れしてきたようである。北日学では長屋さんにスティーブルの馴致をやってもらったが、ほとんど問題なくクリアし、来シーズンはいよいよ権利を狙う馬としてデビューできそうである。ただ北

玲は小柄でまた環境に左右されやすい質なので、ちょっとしたミスが落下や反抗につながりやすく、こうなると精神的リードも必要になってくるだろう。

北玲と加藤さんの健闘と健康を祈って61年度の調教報告の締めくくりとする。

## 北雷号調教報告

真鍋 直子

新人新馬の試合のゴール1つ切れなかったこの私には調教云々という立派なこととは書けないと思いますし、私が乗った北雷号はもう北大におりません。しかし彼と付き合った1年間の経験が同じ馬を扱う後輩諸君の何かの足しになればと思います率直にかいてゆきます。

4才になったばかりの6月に北大にやってきた北雷を見て新馬らしくない奴だという印象をもったのを覚えている。たまたま夕方の当番か何かで馬房に入っても顔も上げず無心に草を食っている。妙におちついていて、人に対して全く無関心のように見えた。いま思えば実はそういう所こそ新馬たる特徴だったのだが。入厩してから半年間は主に山田兄が騎乗して調教を進め、また半田さんが下級生を乗せて調馬索を回すなどして、人馬両方のトレーニングとしていた。

馬配が決定し、私が本格的に騎乗し始めたのは12月であった。それまで山田兄がシャンボンを用いて乗っておられたので、馬の方は頭を下げたら楽になるということはわかっていた。問題は人間である。始めはシャンボンをきつめにかけて、拳の感じがつかめるに従って長くして拳の作用が大きくなるようにした。こうして2月の中旬ごろにはシャンボンをつけなくなったが、下級生に対しても頭の事はうるさく言ったし、その下級生が技術的に無理だと感じた場合は一時的にシャンボンを付けたり放棄で練習させたりして、首から胸に書けての筋肉を発達させてしまわないように注意した。ハミが口の中にある、という状態からいわゆるハミ受けにもっていくにはどうしたらよいかわからず試行錯誤の日々が続いた。このころ長屋兄に指導していただく事ができた。前駆にかかっていた馬のバランスを後駆に乗せるようなつもりで人は体を起こし、脚を使っていく中で少しずつ馬がハミを引いていくのを感じるようになった。最後まで満足の行く口向きを作れずに終わってしまったが、これは馬の反応に対し、私がそれでいい、ダメだという応答を正確にタイミングよくできなかつた事に大きな原因がある。馬に対して甘く、妥協が多かった。練習の流れとしては、人が拳を安定しやすい常歩に時間をかけて頭を下げ、人に注意を向けるようになったら速歩に移行し、運動を広げていった。

障碍に関しては、平場の運動の延長としてキャバレティやそれを変化させたものを前にかからずにリズムよく通過する事を要求していく一方、馴致の意味で、1mくらいまでの障碍をどんどん飛ばせた。”水野さんからの手紙”を参考に、遠くからドーンと飛ばせる事、障碍に対してペースを上げない、つまり飛べるペースで入っていくという事をいつも頭においていた。踏切はまだまだ安定せず落下も多いが、障碍に対するこだわりはなく、パー障碍なら、かなり大きな物でも

、ちゅうちょせず向かっていった。

まだ若いめか、本来の性格か、おそらくその両方だろうが、北雷はかなり憶病である。馬房や北大の馬場の中など自分でここは大丈夫だと思う所では他馬よりずっとおとなしいのだが、それ以外においては大げさにビビる。外乗は人馬のリラックスタイムとして入れる事が多かったが、物を見せるときは恐怖感を植えつけてしまわないように無理をせず、前より少しでも進歩していれば良しとして、よく愛撫してやった。

馬体に関しては、鞍傷、パットずれ等に少々悩まされたが、スタミナや四肢の強さは文句なしで、シーズンに入ってからのかかなりハードな運動量にも何とか耐えてくれた。翌日に明らかに疲れが残っていると感じるような事はなかったが、夜は投げ草を食べてしまうと早々と寝ていたようである。話が少しそれるが、やせて背中肉が落ちたり、装鞍のし方次第で問題のなかった馬もキ甲や背中を痛める場合があるという事をチーフは忘れないでほしい。

試合は公認大会の婦人、北日の新人新馬にエントリーした。公認では試合の前日準備馬場である程度落ちついていたのだが当日は準備馬場から完全に混乱し、そのまま本馬場に入場。走り回っただけで結局一つも飛べなかった。北日では本馬場で何回か練習する事ができ、障碍も北大と変わりなく飛んだので大丈夫だと思った。しかし当日準備馬場にはいると前日までなかった部旗を極端にこわがりまた狂走したりで手におえない状態であったが数回単一とオクサーに向けると、やや突っ込み気味であるが、大きく飛越した。結果は1番を2反、2番ビラビラを左に切られて失権した。試合が終わって幸い経路がそのまま残っていたので連続を一部レベルを下げて経路走行した。何度か反抗があり、決してスムーズではなかったが、それは人の誘導ミスのためで、癖のあるカマボコや花壇障碍は案外すんなりこなして「あれ？」とおもった。

これまでの練習が試合に全く通用しなかったのは、場所や試合のレベル、調教段階の問題ではなく”騎手への絶対的服従”を教える事ができなかったからである。精神的に技術的に。恐怖心を起こさせないようにするのは大切であるが、馬が怖い、嫌だと思った時にそれを我慢し勇気を出させる事ができなければ調教は進まない。

(最後に)

北雷のクラブでの位置は練習馬であったので、そのチーフである私の役目は下級生が上達するように彼を使うという事であった。個人的には試合を意識してい

たので、何とかそのレベルまで持っていきたいと思った。しかし、人馬とも余りに未熟なため、日々の調教は一進一退で、新一年目が入って5月いっぱい時間との戦いであった。いつも見えない何かとけんかしているような心理状態であった。公認、北日の新人新馬に焦点をあて自分なりに納得のいく練習ができ始めたのは6月ごろからであった。この下級生にはどんな練習が必要か、その時北雷はどのような状態であればよいか、それを1日の流れのどこに入れればベターかをしっかり考えそれを無理なく生かせるようになったのである。クラブを下から支えているという自信をもち始めたのもこの頃である。こういう気持ちで始めから乗っていたらもっともっと前に進めたのではないかと今さらながらおもったりする

馬術部4年間いろんな事があったけれども、北雷とつきあった最後の1年には語り尽くせないほどの思い出がつまっています。サブ・チーフをはじめとする下級生諸君、同輩達、そして北雷に心から感謝しています。

また馬体の管理の事を含め多くのアドバイスをいただいた山田兄、忙しい中時間を割いて指導して下さった長屋さん、その他たくさんのお世話になった方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

## スーパ－・ボーイ号調教報告

森田 敏

60年秋、水野さんのお世話により入厩し、札幌で就職した私が調教することになった。首が短く太いこと、頭が大きいこと、目つきが座っておりかつ冴えていること、小柄だが筋肉がよくついており締まっていることが印象的だった。いかにも障害をうまく飛んでいきそうな気がした。

一年間で速歩で回転・伸縮が確実にでき、低障害（80cmくらいまで）を回ってこれるくらいになることをイメージして運動を行った。

まず、蹄跡を使ってゆっくりと落ち着いたリズムで常歩・速歩ができることを念頭においた。脚には鈍感でもなく敏感過ぎることもなかったが、走ることで自分で興奮していく傾向があった。そこで、なるべく脚を使い背中に負担をかけないように軽く前傾して乗った。

ハミにかかってくる馬だということに気付いたのは、しばらくしてからだった。頭から首に欠けて固いのはそのせいもあるだろう。とにかく停止が難である。口を固くして、反抗する。幸い左右の開き手綱には素直であったので、「障害馬術」（アンソニー・パールマン著）を参考に、蹄跡の埒を利用して停止を覚えさせようとした。すなわち、隅角手前から向う側の埒に向けて歩き、外方開き手綱により停止する。毎日何回かずつ行うことによりある程度理解するようになった。かなり長くかかったが馬場中央でも反復して手綱を控えることにより、停止するようになった。

春からはシャンボンをつけ、速歩で伸縮・左右回転の運動をした。大きくかつ柔らかく運動するよう心がけた。頭、頸の伸縮低下を期待したが、なかなかうまくいかない。

障害は、最初キャバレティーさえ恐る恐る通過していたのが、「ずぶとい性格」を発揮し、慣れは早かった。キャバレティーからそれを積み上げて、単一あるいはオクサーを作るのが障害飛越への無理のない導入となり効果的だった。これには、半沢先生に作っていただいた十字が端についた横木が非常に役にたった。

障害調教が進むにつれ、コンビネーションもとり入れた。飛越のバランスを身につけるのに効果的だったと思う。障害はいずれも、易から難へ、ということを手頭に入れて行ったつもりだったが、昨日飛べたのに今日は飛べないこともあり、つくづく新馬調教の難しさを思い知らされた。また、障害飛越にまだまだ不安感を抱いているため、好んで自分から障害へ向かうことがあまりない。もっと前進氣勢が欲しい。

新しい障害、あるいは不整地での馴致はずぶとい性格のわりには勇気がなく、手こずることが多かった。陸上競技場横のタイヤバンケットを飛んだときは肢が

ふるえていたし、サッカー場と農場の間の川を越えるときは肢がすくんで、転んでしまったこともあった。ただ人間が下に降りて前で引いてやると、飛ぶということが度々あった。やはり、経験を積んでいくことだろう。

基礎調教期が終わったというにはまだまだ遠い状態です。このようなとき、甚だ心苦しいのですが、個人的な理由で調教から身を引かせてもらいました。朝しかクラブに行けなかったので馬体管理・普段のしつけに関しては、サブ・チーフの皆に非常な努力をしてもらいました。この場を借りて、感謝の意を表するとともに、その努力に報いることができなかったことを謝罪致します。

スーパーが、近い将来きっと試合で活躍できることを願いつつ、この調教報告を終わらせて頂きます。

## 北凜号調教報告

山田 和男

ヤマニン・スプリング号は、その名からもわかるように、種牡馬ヤマニンの古都錦岡牧場の好意により北大馬術部に入厩しました。故障無し、未出走、性格良、癖無しなどという馬が入厩することは本当に稀なことで、錦岡牧場の皆様に心より感謝申し上げます。

この馬に課した課題の中で、

- 1、立ち上がったたり、急に走り出したり、蹴ったり、かんだりしないこと
- 2、長期間活躍できるだけの馬体をもつこと
- 3、一年生のように、何も要求しない騎手が乗ったら、非常にリラックスして運動すること

以上の3点は、たえず肝に命じて騎乗していました。

馬に調教したことは、停止・発進・加速・減速・方向転換、ということになるでしょうか。後退は私自身あまり必要を感じる機会がなかったので教えていません。停止は別に教えることもなくもともと四肢をそろえて停止しました。駆歩発進もその場から発進できるところまできました。左右の癖はそれ程かたよりなく騎手が気にかけておればさほど問題にもならないと思います。

私の騎乗した一年は基礎体力作りと、下級生の練習に使えるようにすることと、小障害飛越ができることが課題でした。

障害飛越に関して、あるとき馬の能力がどの位あるのか試したくなってやってみたところ高さ130幅160のオクサーや幅250位飛んだことがあります。その時思い出したのは岡田監督が「どんな馬でも120cmは飛ぶもんだ。」といていたことで、結局このとき得たのは、このことだけで馬の調教には何のプラスにもならないことがわかって恥ずかしくなりました。細かく書けばきりがないので、調教に関して気付いたことを書いておきます。

- ・馬と同じレベルになってケンカをしない。
- ・あなたより頭の悪い動物＝馬にわかるように教えてやる。
- ・筋肉トレーニング・技術トレーニング・精神的トレーニングを混同しない。
- ・馬に自信をもたせる。
- ・馬の習性、感情表現をよく理解し、それを活かして調教を進める。

## 編 集 後 記

「別冊 調教報告編」の制作が大幅におくれてしまい、結果的に発送がおくれ、誠に申し訳なく思っております。

今回、「調教報告」のみ別冊にしたのは部報の「編集後記」にある通りですがこの新しい試みは失敗であったようです。

尚、ドン・ホッパ一号と北姫号の原稿が間にあわず割愛させていたの  
きました。御諒承ください。

部報編集委員

